

行燈
名稱

〔玉露叢 十三〕一同年寛永十六年ニ江戸大火此時御城回祿ス、御城御普請出來シテ、御移徙ノ時、御一門及ビ諸大名衆ヨリ献上物ノ品々、略中

一 蠟燭之心切 十

一 同心入 十

一 シンキリ 十

杉原伯耆守略中
板倉周防守重宗

〔下學集下財〕行燈アソドリ

〔和爾雅五器用〕行燈アソドリ方燈

〔饅頭屋本節用集財安〕行燈アソドリ

〔鹽囊抄三〕灯トウ呂ロヲアンドン、チャウチンナンド云文字如何、挑灯ト書テ、チャウチントヨミ、行灯ヲアンドントヨム、皆唐音歟、行キヤウノ字ヲアントヨム事、行アソドリ在行者等也、

〔倭訓栞中編一〕あんどろ 行燈の音也、あんは古音也、行宮、行在、行者、行厨、行戸、行脚などかくいひならへり、有明行燈は暗燈と見えたり、兵家に疊行燈、釣行燈あり、

〔中山傳信錄六〕燈アソドリ燭ロウ略中

民間燈多用燭、以木作燭、四方糊紙、高木座籠、油碟其中、置地席上、

行燈沿革

〔翁草五〕當代奇覽と題せるものに、あらゆる雑談有り、十が一爰に拾ふ、

一 古老の物語に、今の世に有る諸器之類、いにしへより皆有る事の様におもへども、左には非ず、行燈など、云ものあれども、今のごとく蜘蛛を中に釣るは近き事也、昔は路次の行燈のごとく、底板に燈臺を置たる也、中に釣は小堀遠州の丸行燈を仕出し給ふより始り、角なるにも、中に釣事になれり、

〔骨董集上編中〕行燈